

平成30年度 奥越明成高校生 市長と語る会 議事録

- 【目的】 ・勝山市内の高校生と市長とが、世代や立場を越えて語り合う場を設ける。
・次代を担う高校生と市長とが語り合うことを通して、ふるさとに誇りを持ち、未来に目を向けて学び続ける人材の育成を図る。

【日時】平成30年10月24日(水) 16:00～17:30

【場所】勝山市役所3階 第1会議室

【参加者】奥越明成高等学校 第3学年生徒6名、引率教諭

【テーマ】 「ふるさと勝山が持続可能な地域であるために～勝山市に思うこと～」

<市長>

みなさん、こんにちは。昨年に引き続いて2回目の語る会となる。数年前から高校生の人たちと色々な話をしたいな、色々な考え方を聞きたいなと思っていたところである。昨年それが実現して、非常にフレッシュな考え方をうかがえたとし、また、私を中心として、勝山市がいただいた考え方に基づいた政策もこれからやっていかなくてはならないといったようなことと今までやってきたことはよかったなどという点も見えてきたし、そのような形で生かしていきたいと思っている。

私が考えているのは、勝山市というのは2018年、平成30年が現時点だけれど、これまでの間勝山市はできてから65年近くたっており、これから先もどんどん伸びていかなければならないということを見ると、現時点だけを考えているのではなくて、次の時代のことを考えなければならない。次の時代を担うのはみなさんなので、みなさん方の意見を聞いておかなければならない。そして、聞いていかに実現するかということに対して努力しなければならない。次の時代、そしてもう一つ先の違う時代を作っていかなければならないのだから、継続性のある、最近ではサステイナブルという言い方をしますが、そういった町を作らなければいけないと思う。

過去から引き継いできて勝山市が今ここにあるということだから、過去をさかのぼりながら、いかにいいものが残ってきたか、いかにいいものを残してきたか、さらに何を残していかなければならないかということも目標になってくる。そのプロセスとして、今日のこの話し合いがあると思ってほしい。みなさんの忌憚のないご意見なり考え方なりを聞きたい。

<司会>

高校生のみなさんから自己紹介をお願いしたい。(奥越明成高校関係者が自己紹介)
本日のテーマは「ふるさと勝山が持続可能な地域であるために～勝山市に思うこと～」。最初に高校生のみなさんから、自分の考えを語ってもらい、そののち、市長より、ご高評、ご助言などをたくさんいただきたい。

<Aさん>

私たちは次の政策を提案する。「1 スポーツ人口の多い町」「2 観光面で県外の人に知ってもらう」「3 山を活用した街づくり」。その中でも特に最優先する政策は、「3 山を活用した街づくり」である。理由はこの3の政策を優先することで、スポーツ人口と観光客がともに増えて、私たちが考えた政策がすべて

実行できると考えたからである

<Bさん>

政策の内容は、都会にはない勝山の豊かな自然を生かして、スキー場やアスレチック施設を作ることである。私たちが生活しているすぐそばには、山などの豊かな自然がたくさんある。その自然を活用して、ハンモックやターザンロープ、恐竜をモチーフにしたすべり台などの遊具を作る。ハンモックは高齢者でも安全な遊具となっている。ターザンロープは山々の風景を見てもらい、すべり台はこの施設の象徴となるように恐竜をモチーフにして作る。

<Cさん>

この政策をすることで、都会に住んでいる人が観光目的で勝山に訪れ、今よりも観光客は増えると思う。また、地元に住んでいる高齢者にも、健康維持を促せば、施設を作ることに同意して、施設を利用してくれると思う。子どもたちの遊び場も増え、喜んでもらえると思う。しかし、施設を作る際の建設費はかなりの費用を要すると思う。だから、入場料金は少し高めに設定される。しかし、入場料金が多少高くなっても、観光客やスポーツ人口を増やすことは効果的な政策だと思う。この政策を勝山市内で実施すれば、勝山市の観光客数、県民の体力向上、スポーツ活動が今より改善され、日本で一番健やかな街になると思う。

<市長> 私が考えていることとぴったり同じことを提案してくれて、たいへんうれしい。なぜかという、ぼくが一番好きなのはスキーである。スキーも最近ではゲレンデスキーでジャムでのスキーばかりだけど、若いときは、山スキー、ツアースキーといって、山へスキーを担いでいったり、もしくは逆行しない、滑らないシールをスキーに貼って、それで山に登って、山のとっぺんから滑っていた。一番最高の山スキーは白山。白山の頂上から今の別当の出合まで滑る。この近くで言うと、経ヶ岳へ行ったり、スキージャム勝山ができる前の法恩寺山はそういうスキーツアーコースだったからそこに行ったり、加越国境では、取立山とかに行ったりした。一番最近面白かったのは大野の銀杏峰。大野の奥のほうにあってとてもきれいな山である。銀杏の峰と書いて「ぎなんぼう」と読むんだけど、その山も滑ったことがある。こんな話をしていると話が全然前に進まないから困るが、それほど自然に入れ込んでいるということ。だから、こういう提案はうれしい。

幼いころや小学生のころに自然に親しむ機会を作りたいということで、東山キャンプ場で体験できるようなことを提案して、教育委員会で機会を作ってもらった。みなさんは行ったかな？（はい。）経験しておくことで、自然に触れる機会が多くなるし、今まで経験のなかった人もあのキャンプによって楽しさがわかる。だから、力を入れていきたい。

具体的には、恐竜の森、長尾山総合公園によく似たものがある。もっと大規模にサイズを充実させてつくりたいという気持ちはずいぶん前から持っているが、君たちはどこに作ったらいいと思うか？池田町には、大規模な野外アスレチックがある。スキージャムのリフトぐらいの長さのターザンロープで、山から山、谷を渡っていくらしい。ツリーの上に渡り廊下のようなものを作って歩けるようにしてあったり、一度参考に見に行きたいと思ってるし、作りたいと思っている。だから、具体的にどこに作ったらいいか、提案があればまた検討したい。

一つの案としては、頭の中だけの話だけど、スキージャム勝山の正面ゲレンデの左側に森があり、そこには舗装された林道が通っている。山は急なんだけど森林公園になっていて、勝山市の持ち物だから、何かしようと思ったらできる可能性も含めて考えてみたい。

山のスポーツで、今までの経験上、思い出はあるか？（Cさん：やはり、スキージャンプですね。）スキージャンプは年間何回くらい行きますか？（Cさん：1, 2回です。）（Bさん：1回もないです。スキージャンプには行かないです。滑ったことないです。雁が原ならあります。スキーは持ってなくて、レンタルです。）スキーは絶対やっておくといい。私はスキーはだけど、スノーボードでもいいし、冬はスキーをする。そうしないと冬が嫌いになる。雪が降ってくると嫌だなあとという思いで夜空を眺めると、雪が降ってくると嬉しいなあとと思うのでは全然違う。特に勝山に住んでいるのだから、まだまだ若いのだし、ぜひチャレンジしてほしい。教えてほしかったら教えてあげますよ。

<教育長>

山を活用とした街づくりということだけでも、山といえば、それぞれ近くの山がある。提灯登山へは行ったことありますか。（Cさん：村岡のほうならある。）大師山は？（Cさん：大師山のほうはない。大師山はたいまつ登山。）

<市長>

Aさんは、どこか登ったことはあるか？（Aさん：小学生のころから村岡山なら何回も登ったことがある。）手軽に行ける山といえば、大師山もそうだし、前の向山もよい。向山が一番手軽に登れるし、急なところもあるけれど、30分もあれば登ることができる。てっぺんに上ると勝山の町が一望できて、白山がよく見える。まずは勝山の町の手軽な山に登ってみるとよい。上まで登る道はできたか？（平沢部長：できている。）それは素晴らしい。春のカタクリの花がきれいである。頂上がラクダのこぶのように2つある。手身近に登れる山として、もっと積極的に活用なり体験なりしてほしい。

ぼくは忙しいとは言っても、スキーに年に10回は行く。朝6時ぐらいに起きて、7時ぐらいに着くように行く。7時半に土日はリフトが動き始める。リフトの一番に陣取って一番に乗ると何がいいかというと、人がいないグレンデを縦横無尽に滑ること。スキージャンプはどんなに凸凹に荒らしても一晩できれいにならしてあって、とてもきれいになっている。最初にスキー場のてんっぺんにつくと、前に広がるグレンデに誰も人がいない。こんなに面白いことはない。ガンガン滑って、人が増える10時半ごろに家に帰り、家で昼ご飯を食べるということになれば、ものすごく効率よく楽しむことができる。勝山市の中にスキー場があるというのはものすごくハッピーである。このような楽しみを持って、もっともっと勝山のいいなあを感じ取って、さらに勝山を好きになってほしい。

<Dさん>

私たちが考えた一つ目の政策は、幅広い年代の人が行きやすいカフェを作ることである。現在、子どもからお年寄りまで楽しめる場所が少なく、特に若者で県外へ行く人が増えている。今後は若者のUターン化や高齢者引きこもり防止のため、幅広い年代の人が行きやすく楽しめる場所が必要である。建物の空いているスペースや空き家を使って学生主催のカフェやお年寄り向けのカフェを作るとよいと思う。

<市長>

そういうのは必要である。勝山は喫茶店というかお茶飲む場所が少なく、10年ぐらい前に、私の提案でゆめおーれにそういう場所を作った。集っておかしな場所じゃないし外はオープンだし、みなさんも気軽に寄れる。そういう雰囲気のカフェを街中に作るというのは、いいことである。これをどのように作るか。空き家はたくさんあるから、適合するような家を見つけてやる方法はあるが、だれが運営するのか、維持管理など工夫が必要になる。今勝山市には幅広い年代の人が行きやすいカフェというのはない

のかな。

<教育長>

コーヒー飲んで、ケーキが食べれて、食事ができる何とか喫茶というのは、何軒かはある。人口当たりになると少ない。

<市長>

花月楼の下はカフェ？(平沢部長：ランチです。)

<平沢部長>

サンプラザの2階に社会福祉協議会が運営している認知症カフェがある。認知症の方でなくても高齢者の方が気軽に行けるカフェを、提案にあるような形に近い形で運営している。

<市長>

イメージとしては、どんなのが欲しいか？友だちと気軽に入って、コーヒーやケーキを楽しむ、そんな感じか？(Dさん：雑貨とかもあるといい。かわいいアクセサリとか。)高校生がちょっと手に取って、これいいなと思えるようなものが置いてあるようなお店をやってくれるお姉さんみたいな人を発掘するために、市では補助政策を行っていて、市から補助金を出している。今欲しいと言っていたものを一つのカテゴリとして打ち出していけば、20代、30代の人で何かやってみようと思っている人は少なくないと思う。

<教育長>

みなさんは学校が終わった後、平日、まっすぐ家に帰るのか？(高校生：はい、帰ります。)

<市長>

帰らないよね。(高校生：学校が半日のときはどこかに寄ったりします。)

<教育長>

どこかによるというのは、大野の町？(高校生：いいえ、勝山です。)勝山に戻ってきて、どういうところに行くのか？(高校生：最近は、「ゆかり」というところに行きます。定食屋さんみたいな。)

<市長>

その店の何が魅力ですか？(高校生：から揚げの広告があったので友だちと一緒に行きました。)それで、ショッピングもできるといいのだね。

<教育長>

休みの日には福井には出かけるのか？(高校生：行きます。)勝山にもあるといいなあとと思うのは、どんな店か？あるいは、なんでこういう店が勝山にはないんだろうと感じるものはあるか？よく言われるのは、マクドナルド。そのほかになにかあるか？(高校生：ファミレス。)

<市長>

ファミレスぐらいはあってもいいが、なかなか来てくれない。人口や観光客は多くなっているが、働く人がいないと言われる。開店しても従業員が集まらないということがあって、突破口が見つからずにいる。ファミレスとかファストフードの店とかほしい。(高校生：大野にはVioにまとまって両方ある。)Vioに行くこともあるのか？(高校生：はい。)勝山もサンプラザにがんばってもらおうか。サンプラザの前のお店もやめてしまって、クリーニングの店になっている。

学校は大野だから、みなさんはバスで通うのか？(高校生：はい。)停留所はみなさん、それぞれ違うのか？(高校生：帰る場合はバラバラ。)一緒におりて遊ぶこともあるのか？(高校生：はい。)大野へ出

かけることもあるか？（高校生：はい、カラオケとか、大野にはあるから。）勝山はあったかな？（高校生：てっばんにはあるが、行かない。）カラオケもないのはちょっと悔しいね。

勝山もある時期、若い経営者が少なくなり、今やっている事業の後を継ぐ人がいなくなった。今の状態をそのまま継ぐということではなくて、それをやめて、違うことをやってみようという若い人も減った。私が市長になってから起業する人の支援も始めて、起業する人が出始めた。例えば、本町にある「福の依」さんなどあちこちに飲食屋さんができた。若者をターゲットにしたものが今ないので、そういうカテゴリも一つ作ると触発できると思う。若い人たちに好まれる街を作っておかないとこの街の魅力が若い人たちになくなって離れていくことに加速度がついてしまう。

みなさん方も後しばらくすると車を運転するようになり、ある程度経済力がつけば、車を手に入れる。昔は1時間かかった勝山－福井間が今は30分。勝山に住みながら勝山のよさを味わい、利便性のあるショッピングをしたいときには福井にも行けるから、別に福井に住むために行くことはない。勝山でも十分に用を足せるし、いろいろ心がけてみなさんの好むような街を作り上げていきたいという気持ちがあるから、決してあきらめないで、勝山から出ていくなんてことは考えずにいてほしい。

就職先にしても、勝山の人がいるのが一番いいことである。このパンフレットにあるように、今度勝山産業フェアを行う。みなさんの質問内容を見ていると、よく勝山のことを理解してくれているからうれしいが、なかなか理解できていない人もいる。親の世代の中には、あまり勝山のことを評価していない人もいる。自分の町をしっかりと把握したうえで勝山に就職するとか勝山にずっといるとか判断をしてほしい。勝山にどんな職場があるのか、どのような企業活動をしているのか分かってもらうために、10年ぐらい前から勝山産業フェアをやっている。今回は初めてジオアリーナでやる。ここに書いてある企業が出店するし、ステージイベントとして左義長保存会とか勝高の太鼓とか、食べるものは勝山ぼっかけとか、いろいろやろうとしているので、是非とも見に行ってみてほしい。

<Eさん>

2つ目の政策は、キャンプ場や民泊などの宿泊施設を作ることである。キャンプ場を使用するように勧めたり、民泊体験などの呼びかけを行う。また、ご当地グッズや郷土料理とコラボする。スキージャンプや恐竜博物館などがあるため、キャンプ場や民泊施設を利用できるようにすることで、地元の人たちは楽しく遊べるキャンプが行え、県外から来た人には地元の高齢者が作った郷土料理や手料理をふるまうことで、勝山のことをもっと知ってもらえる。民泊をすることによって、ひきこもりがちな高齢者が減り、新しいコミュニケーションな場が生まれたり、地域がもっと活気づくのではないかと。ご当地グッズを作って売り出すことで、勝山を象徴するキャラクターとして認知度が高くなり、勝山を知ってもらう機会が増える。

<市長>

これもアプローチしやすい提案である。今もこれに関連したようなことを展開している。民泊は、さらに呼びかければやると言うところもあるように思う。ただ法律的に難しい面もあるので、それをクリアしていく必要がある。

郷土料理は、どんなのを知っているか？ふつう食べているものが郷土料理だが、芋の煮ころがしとかぼっかけとか、勝山の人たちが普通だと思っているものがほかの人たちにとっては珍しいしおいしいなというものがある。そういうのを紹介するのはよい試みである。このような動きは各地区の婦人会的な

住民集まりの中で盛んに行われている。例えば、遅羽地区の人たちは勝山の駅前で民家を利用して施設を作った。行ったことある？（行ったことはないが、見たことはある。）なかなかおいしい料理を出してくれるし、そのような動きが結構ある。これからも広げていきたい。平成32年に道の駅ができるから、道の駅で提供する食事も郷土料理主体にしようと思う。こういうことも含めて、提案している民宿も推進できる市政の政策にしたいと思う。

<Fさん>

3つ目に考えた政策は、雪を使った祭りを企画することである。具体的な内容は、除雪された雪を使ってアートを作る、左義長とコラボすることである。

勝山は毎年降雪量が多く、冬になるとたいへんな思いをする。マイナスなイメージのある雪を使い祭りを企画することで、多くの人を楽しめる上に、積もった雪を消費することもできる。若年層の人や小さい子どもは参加する側として、大人や高齢者は見る側として、幅広い世代の人に楽しんでもらうことができる。また、左義長とコラボさせて、左義長太鼓やどんど焼きと並ぶメインイベントになれば、より多くの人に見てもらえることができる。

<市長>

鹿谷町雪まつりへ行ったことはあるか？（聞いたことはある。）鹿谷町は、20年ぐらい前からやっていて、いろいろ充実もしているし、何よりも鹿谷町の人たちが一生懸命やっていて、エネルギーがすごい。一度行って、それを参考にして、鹿谷町にないものを勝山市でやるといいと思う。

ジオアリーナの駐車場が広くて、今年は除雪の後、とても大きな雪の山ができた。それを利用すれば、結構面白い雪のイベントができると思う。滑れるし、石像づくりもできるし、除雪を工夫して一か所に集めるなり、集め方も考えて、市民の人たちに何かイベントを行う場として提供できると思う。奥越明成高校のスペースを空けておくので、そのときにまた、さらにアイデアを出してほしい。

<教育長>

雪像ですが、鹿谷も作っています。鹿谷にもいろいろな地区があって、雪像づくりを競い合いコンテストをやっている。

<市長>

雪像づくりに関してはアドバイスをしたこともある。あまりにもきれいな雪なのに、その上に絵の具をべたべた塗っていたから。雪そのものの美しさは光の陰影によって生み出される。とにかく、冬を積極的に活用する提案があつてうれしい。勝山は雪さえなければこんなにいいところはない。降るものは仕方がないから楽しまなくちゃ。

<教育長>

ジオアリーナの駐車場で、ビジネス情報科のみなさんはどういうイベントができると思うか。（コンテスト）それ以外では？こんなことをしたら人が来てくれるのではないかな、自分も参加してみたいと思うことはどんなことか？広いから何でもできる。

<市長>

今勝山市では高齢者や自動車を運転できない人のためには、「ぐるりん」というバスを走らせている。みなさんは利用しているか？おうちの人に送ってもらう？自転車？（Cさん：はい、自転車です。）高齢

者の人に便利にしようと思い、コースとか時間帯とか、いろいろ考えている。高校生のみなさんにも利用してほしいが、利用しなくても目的地にはそんなに苦労しなくても行くことができるのか？(Eさん:バス停が遠いというものもある。バス停が遠いとあまり使えないので、お母さんに頼んでいる。)

年齢はいくつ？(高校生:17歳) まだまだ将来がある。人生というのは、生まれたばかりのときは、可能性はすごく大きいから底辺がとても広い。だんだん年を取って、私や教育長ぐらいになると何にもない。みなさん、まだ底辺がものすごく広い。何でもできる。気持ち次第。世の中渡って行こうと思うと挫折もあるけど、前を向いて希望を常に掲げて、自分の夢をかなえたいという気持ちがあれば絶対できる。挫折したとき、悪いほう悪いほうばかりに考えると傾斜してしまうから、決してあきらめなくてもいい。苦しいことも当然あるけれど、そこで、夢に向かって努力するかしないかだろうと思う。17歳ということは、君たちが生まれる前から私は市長をしている。すごく年を感じる。

<司会>

将来の話が出たので、みなさん将来何を目標してどんなところへ行きたいのか、そんな話も聞かせてほしい。

<Cさん>

ぼくは、税務署の職員になりたい。僕の父親も税務署の職員。国のために尽くしてみたい。

<市長>

お父さんの後を継ぎたい、お父さんのやってきたことをやってみたいというのは一つのきっかけ。それも大事なことである。やってみたところ、こちらのほうがいいのかもと思うかもしれないから、それはその時点でまたよく考えればいい。当面の目標が明確にあるということは、決して悪いことではない。

<Aさん>

私は会計士になりたい。会計士になるために専門学校に2年行くことになる。一生懸命頑張る。(教育長:なぜ大阪なのか) 福井にも大原専門学校があるが、在学中に資格を取った人は一人もいないと聞いた。その手前の検定しか取れないらしいが、大阪や東京ならば在学中に取れると聞いたので、親せきにいる大阪にした。

<市長>

会計士はすごくお金になるらしい。しっかり資格を取って、勝山に帰ってきてほしい。

<Eさん>

私は4月から勝山病院の老人施設へ就職する。将来的には、自分の施設を持てたらなあと思っている。勝山で施設を作りたいと思うので、ちゃんと学んで頑張りたい。

<市長>

夢が大きい。頑張って！大事な職業である。

<Dさん>

看護師になって経験を積んで、将来は訪問看護師になりたい。

<市長>

勝山市の病院は看護師が不足しているから、ぜひ立派な看護師になってほしい。

Bさんは、内定しているね。(はい、ニットクです。) ニットクさんもいい会社である。趣味は映画鑑賞だね。今度、えちてつ物語が公開されるので、友達誘って行ってほしい。あれは素晴らしい映画である。

特に勝山は、風景がたくさん出ているし、風景だけじゃなくて勝山の市民もエキストラで出ている。きっとみなさんの知っている人の顔も見れると思う。

<市長>

女性が勝山に戻ろうと考えたら、勝山で仕事もあって勝山で結婚してほしい。出会いの場はあるのかな。それを作らないといけない。スキージャンプのキャッチフレーズは、「日本で一番男女の中でロマンが生まれるスキー場」。スキージャンプに行くと都会の人が多し勝山じゃないみたい。ぜひ勝山を楽しみながら、勉強して成長してほしい。そうすれば必ず帰ってくるという気持ちにつながる。

<司会>

勝山で暮らしていて不便だなあとか、もっとこうなっていてほしいなあということがあれば、聞かせてほしい。

<Dさん>

街灯を増やしてほしい。中学生が帰るときに暗い。(市長：具体的にはどの辺かな) 中部中学校から、栄町に向かって帰る道で、中部中学校から浄土寺川沿いを来て、橋を渡って銀寿司さんの前に行く道。妹が通っている。

<Eさん>

栃神谷に住んでいるが、除雪の時に家の前に雪の塊を置いて行かれることがある。父は夜中に仕事に行ってしまうので、朝は私とお母さんとで除雪をする。もう少しちゃんと除雪をしてほしい。トンネルを抜けてすぐに曲がったところで、一本道になっているところに家がある。

<市長>

毎年、毎日たいへんな思いをしてるんだね。区長さんに言って、「村岡町と市長の語る会」という場で勝山市に伝えてもらってほしい。区長要望で出れば、必ず何かしなければいけない。建設課に伝えておく。

<Fさん>

社会の授業で、勝山市はほかの市より住民税が高いと聞いた。何か理由があるのか？

<市長>

住民税、高いとは思っていないのだが、高いのか？(平沢部長：そんなことはないと思う。どんな話だったのか？)(Fさん：就職とかすると、税金いっぱい取られるよとか…。) 極端に安いということはないけれど、大野とか福井より高いということはないと思う。もしそうなら、具体的に〇〇税が高いとか言ってほしい。税金についてはとても気を使っている。

<平沢部長>

住民税が高いということではなくて、ほとんど一緒だと思う。例えば介護保険料とか国民健康保険料というのは自治体によって若干違うが、それにしてもそんなに大きな差はない。

<教育長>

みなさんも通っていたかもしれないが、放課後児童クラブ、あれが無料なのは勝山だけである。

<市長>

勝山市はみんな、これが当然だと思っているけれど、ほかの市町の人から見たら、「ええ、無料？」となる。2000円とか3000円とか取られている。

<教育長>

そういうサービスをしているということも知っておいてほしい。これも市長の方針でやっている。

<市長>

子育てを負担のないようにしないと、子どもを産んでもらえない。保育園の保育料も福井県の中では1番目か2番目に安い。

<Cさん>

道路の整備をしてほしい。自転車で行くと歩道も含めてガタガタな場所が多い。

<市長>

歩道というと、サンプラザの前からずっと行っている南小学校に向かっている道？（はい。）そういうようなことも極端な場合は、市長と語る会で各地区から「このところを直してほしい」「ひどく痛んでいて全然手がかかってない」など区長に言っていると伝えてくれれば、私の耳に入ってくる。道は、勝山市の場合は冬を経験すると春には悪くなってしまふ。道路補修費もかかるが、放っておくともっと悪くなるから、気の付いたところから直しては行く。

<Dさん>

犬を放し飼いにして遊べるドッグランのような場所が欲しい。

<市長>

勝山はどこでも大丈夫なのでは。弁天河原とかあまり文句を言う人もいないように思う？（平沢部長：スキージャンには夏場ある。）スキージャンが困るのは、イベントがあってもスキーに行くにも有料道路だからお金がかかること。あと4、5年たつと無料道路になる。中央公園なんかはどうなのか？あまり人がいないからいいのでは？

<Cさん>

国体に向けて作られた野津又から石川に抜ける道を1回通ったことがある。石川のほうから勝山のほうへ来たのだが、やっぱり道が狭くて困った。

<市長>

ぼくははまだ行ってないが、小松側がものすごく細いらしい。一車線しかない。だから車がたくさん行くと渋滞してしまう。行き違いもできないらしい。

もともと勝山市の野向町や村岡町の人たちは石川県側の加賀新保に行くには、大日山の大日峠を越えていかなければならなかった。あの道はそのために使っていた山道で、野向や村岡と加賀新保の人たちの付き合いがものすごく密接にあった。加賀の人たちは大日峠を越えて勝山市に入ってきて、持ってきた炭を売ったり勝山の人たちとの交易があって、明治の大きな道がつくまではほんとは頻繁に行き来していた道である。そのために加賀新保から出て村岡町や野向町に居着いた、つまり向こうから出てきた人も多し、その密接な付き合いを復活したいということで、50年ほど前から道を作りたい、いわゆる加賀新保道の復活ということを運動してきた。車の時代だから車が通れるような道ということでずっと運動していて、ようやく願いがかなった。勝山の人たちは大日峠を越えて向こうへ行きたいということが第1希望だったから、それを越えて小松市内までという要望はそんなに強くなかった。とにかく峠を越えて、勝山市と新保との間の道を作りたいが念願であって、ようやく50年ぶりに実現した。この道路整備を促進するという気持ちと意思表示をする期成同盟会という組織は残っているから、小松市側の一本の単車線の道を広げるということには時間はかかるかもしれないけれど、これから取り組んでいくと思う。知らない人は、小松市との距離が近くなって、小松空港まで早くなるんだなと思うかもしれないけ

れど、あの道で小松空港まで行ったら時間がとてもかかる。そういう意味では、目的が違ったということ。そういうふうに理解してほしい。

この前、勝山高校の1年生と話す機会があって、なかなかいい機会でした。さらにもっといい機会が奥越明成高校さんのほうであれば理解を示すし、これをさらにいいものにするように取り組んでいきたいと思う。提案があれば言ってほしい。

<司会>

最後に、もうすぐ高校を卒業して、巣立っていく高校生みなさんにエールを頂きたい。

<市長>

今日はいい機会だった。みなさんは勝山市内で生まれて勝山市内で育った中で、私がずっと市長だったけれども、市長ってこんな人間だと誰も知らなかったと思う。本来はもっとフランクなんだけれども、市役所にいるとしかめっ面もしていきなかつたし、いろいろ難しい。みなさんからご意見をいただいたし、私も市民の一人だからいい場所を作りたいと思っている。次の時代の勝山市を作るのはみなさんだから、そういう気持ちで今日話をお聞きしました。できるだけ意向に沿うような、実現できるような取り組みをしたいと思っている。今日はありがとう。

<司会>

最後に教育長、終わりの言葉をお願いしたい。

<教育長>

先日も勝山高校の「勝山人」に来た生徒にもお伝えしたが、奥越明成高校のみなさんにも言いたいことは、まだまだ勝山のことで知らないことがいっぱいあると思う。学校の先生に教えてもらうのもいいけれど、お父さんやお母さん、おじいちゃん、おばあちゃんにも、いろんなこと、勝山のことを聞いてほしい。いろんな現状を知って、いろんなツールで、自分たちの将来のために提案してほしい。自分が種をまいておくというつもりで、いろんな提案をしてほしいし、高校生活ももう半年で、半年なんてすぐになってしまうから、めいっぱい友だちと一緒に楽しい高校生活を送ってほしい。今日はありがとう。